

住みよいたけし

住みよい武石をつくる会広報

第15号

2019年10月16日発行

事務所 武石地域自治センター内
TEL:0268-85-3667
<http://www.s-takeshi.jp>
印刷 中澤印刷株式会社



たけしカルタ 歴史さんぽみち



昨年に引き続いて第2回目のたけしカルタ歴史さんぽみちが、9月8日(日)に開催され、子供4人を含む40名の皆さんが参加しました。

今回は、築地原地蔵堂から権現様まで約5kmを歩きました。この地域には武石小学校ふるさとカルタに7枚が詠まれています。それぞれ歴史的な建物や石造物、地勢などの故事来歴や由緒について、講師の郷土史研究家でもある児玉卓文本会会長のからの説明に耳を傾けました。

武石地域外からも多くの方が参加されました。普段何気なく見過ごしている地域の中に素晴らしい歴史や風景が隠されていることに皆さん感激し、改めて地域を見直すこととなり、「参加してよかった、また参加したい」との感想が多く聞かれました。

屋外イベントで心配な天候にも恵まれ、講師からの多方面に渡る楽しく、貴重な説明に傾聴しながら昔の人々に想いを馳せ、武石の良さを再確認できた「たけしカルタ歴史さんぽみち」となりました。

保育園の年長さんから各世代の方々に参加いただき、たけしカルタに登場する所を中心にめぐりました。車ではなく歩いてみて、ブロッコリー畑やそば畑、水田等広大な耕地に感動しました。そして休憩場所として各地域の公民館をお貸しいただいて嬉しく思いました。

今回参加していただいた皆さんの感想等を参考に、武石の良さを再認識となる様に、また子ども達には、家族や大人と歩いた思い出が武石の将来に繋がることを願い、次回の企画に取り組みたいと思います。

〈子育て・教育文化部会員 K〉

武石夏祭りに参加

焼トウモロコシ、じゃがバターが大好評



市長、議長もお買い上げ

本会ふれあい交流部会と産業経済部会が8月12日の武石夏祭りに、焼トウモロコシとじゃがバターの模擬店で参加しました。

産業経済部会では、この日のために西武市民農園でジャガイモを栽培、7月31日に児童館とピーターパンに通う児童14名により掘られました。多くの児童がジャガイモ掘り初体験で、掘ったばかりのジャガイモを早速調理してもらい、じゃがバターで味わいました。

お祭り当日は、児童にお手伝いをしてもらったジャガイモの大玉30kgと部会員から提供してもらったトウモロコシ200本を準備、部会員と事務局職員が蒸し作業などの調理に当たりました。また、地域の農家からは、トマトとミニトマトを提供していただき併せて販売しました。香ばしい匂いに誘われ、次々とお客さんが訪れ、モロコシは焼くのが間に合わないほどで完売となりました。

部会では、地域農産物の直販や住民交流など、次の賑わいの創出の参考にしていきたいとしています。



初めてのジャガイモ掘り

藪合子供相撲大会

9月23日秋分の日、日本海を北上する台風17号に南から暖かい空気が吹き込み真夏に逆戻りしたような暑さの中、藪合公民館に造られた土俵上では、山・蚕影(こかげ)・古峯(こぶがはら)の3つの神社の秋祭りに併せて、恒例の子ども奉納相撲が行われました。

「はっけよ〜い、のこった!のこった!」行司の掛け声に併せ、保育園入園前から小学校高学年までの子ども達により年齢別の戦いと、勝ち抜き戦が行われました。

保育園入園前のお子さんは、土俵に押し上げられた意味もわからず、二人が見合ったまま立ち尽くす場面もあり、会場の笑いを誘いました。高学年児童は力強いすくい投げや、寄り切り等、素早い動きに技が冴えました。前日に郷土の力士御嶽海が2度目の優勝を飾ったこともあり、大人からも熱い声援が贈られ、会場のボルテージは最高に。

取り組みを終え、景品を受け取った豆力士達は、「おもしろかった。まだやりたい!」と、熱気が覚めやらぬ表情を見せていました。

この奉納相撲は、娯楽がまだ少なかった戦後間もない頃、地域の青年団が中心となり、青年相撲として始まったとのこと。その後、子ども相撲が加わりましたが、青年団の活動の衰退とともに子ども相撲だけが残り、藪合以外からも大勢の子ども達が集まり力の入った取り組みが行われてきました。



今では、少子化の影響を受け、地域の伝統行事存続に黄信号が点っています。今後も地域の枠を越えて存続してほしい行事です。

美ヶ原高原 秋のササ刈りボランティア

9月28日(土)、美ヶ原高原自然保護センター周辺で、秋のササ刈りボランティアが行われ、当会からも6名が参加、初秋の高原でササ刈り作業を行いました。



ともしび博物館開館 30周年記念式典

午前10時
午後2時

式典 タイムカプセル開封!

記念コンサート

玉崎真弓さんとコーラスセミナー参加者

11月4日(祝・月)

子や孫に思いを寄せた方!
未来の自分へ手紙を託した方!

それぞれの思いの詰まったタイムカプセルが30年の眠りから覚め令和元年11月4日に開封されます。

明治21年に市制町村制が施行され、翌22年(1889年)4月、それまでの武石郷8か村が一つになり武石村が誕生しました。それから100年が経過した平成元年(1989年)に様々な祝賀・記念行事が開催されました。

その一環として11月3日ともしび博物館が開館そして30年後へのメッセージを込めたタイムカプセルが旧武石公民館前庭に埋設されました。

30年前の武石では

- 鳥屋～上武石の県道バイパス工事が進捗中
- 武石新橋(下本入-上武石)の完成
- 美ヶ原飛龍太鼓創設
- 村誌(自然、歴史、民俗、現代の4巻)出版



などがありました。

また、その前年(1988年)は、鳥屋・沖から上武石の県営ほ場整備が完成、翌年(1990年)にはショッピングセンター「ピコ」オープン、武石村農協が合併しよだくぼ南部農協が発足しました。

11月4日は、地域の文化事業の中心であるともしび博物館30周年記念とタイムカプセル開封の式典が併せて開催されます。

当日、来し方をふりかえり武石の行く末に思いを馳せてみませんか。

お知らせコーナー

10月中旬～11月中旬

11月2日(土)



真田が武石にやって来た! [飲食マルシェ]
9時30分～16時 旧武石銀座周辺

- たけし紅葉めぐりウォーキング
10月19日(土) 9時
健康福祉体育部会・武石スポーツ協会共催

- 武石わくわく(通学)合宿
10月20日(日) 練馬区武石少年自然の家

- ともしびの里駅伝大会…10月27日(日)

- 晩秋のスポーツ祭り…11月10日(日)

- たけしカルタ歴史さんぽみち
小沢根・余里方面…11月16日(土)
子育て教育文化部会主催

- 武石住民会議…地域医療の課題と実績
国保依田窪病院 三沢弘道院長▶11月20日(水)
武石地区社会福祉協議会主催

同時開催

第25回JAフェスティバル武石会場(8時30分～15時)

- 第3回 集まれ! 仮装大賞▶13時～ひだまり武石
- プチともしびの里文化祭▶ギャラリークラノマ



【申込受付期間】▶10/21(月)～11/8(金)

【申込方法】FAX・メール

▶FAX:020-4623-5368

▶Mail:fureta.event@gmail.com

【問い合わせ】▶ふれんず武石児童館 橋本・新井

▶TEL:0268-85-2826

- ザニア(Zania)とは「楽しい国」という意味です
武石地域の色々な職業で働く人と子どもたちがリアルな職業体験を一緒にしてもらい、地域の職業や大変さを知ってもらうイベントです。

詳しくは広報うえだ10月号をご覧ください。

武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体



代表取締役 田中直美さん
最高技術責任者 田中 明さん

株式会社 須藤物産

武石 下本入茂沢の沢を約1.2km 入った所に、敷地面積約5ヘクタールに大型温室ハウス4棟が並び須藤物産の農場（と言うよりも「植物工場」）があります。平成27年5月に稼働開始、現在約40名の登録従業員（全員女性）の内、毎日約25名が農場に通ってきており、丸子、長和、武石など近郊の人が多く働いています。

ここで栽培されている「高糖度フルーツトマト」は、平均糖度10（一般的なトマトの2倍）のフルーツトマトですが、さらに「ルチン」、「アントシアニン」、「カロテン」、「リコピン」などの有効成分を豊富に含む5種類のカラフルなフルーツトマトが栽培されています。「おいしく食べられて健康への作用がある」というのが須藤物産のフルーツトマトの特長です。



栽培されたフルーツトマトは、首都圏の百貨店やスーパーに向けて年間約60万パックが出荷され、一部地元スーパーにも納入されています。

また、健康志向や健康寿命への意識の高まりを受け、医食同源の考え方から、トマトをサプリメント代わりにドラッグストアで販売する「薬局野菜」を共同企画中の事です。

温室ハウス内は、温度、湿度や水やりの量、日射量、などが最先端機器により厳重に管理されており、管理された環境の中でトマトは生育ぎりぎりのストレスを受けて高糖度トマトに変身します。田中明さんは、「武石地



域の気候に合わせて温室ハウス内の環境管理をしているが、近年は夏の高温異常など気候変動が激しく、ハウス内の環境管理が難しくなっている」と温室栽培の苦労を話していました。



全従業員 が女性である事に田中直美さんは、「トマトの栽培は子育てに似ている。きめ細やかな愛情や観察力といった感性が作業に向いている。トマトを作るというより育てるという感じです」と話していました。また、子育て中のお母さんが働き続ける事ができるような勤務形態、技量をステップアップする為の勉強会や教育プログラムの実施、各自が保有する専門技能を有効に活用、など農業の現場で先進的な職場作りの取り組みが行われています。

田中直美さんは「トマトで高齢化社会を守り、トマトで若い子供たちの健康を守りたい」とトマトへの想いを話していました。また、田中明さんは「地域の人々に支えられている企業なので、健康トマトを武石から発信し、日本中の健康を作ってゆきたい」と武石へのメッセージを送ってくれました。



須藤物産の詳しい情報は…

須藤物産

検索